

麦の穂

第61号

2017年6月
特定非営利活動法人

麦の会

TEL&FAX

022-299-1279

〒983-0834 仙台市宮城野区松岡町 17-1 郵便振替口座 02200-8-46178
E-mail : muginokai@k5.dion.ne.jp http://www.muginokai-koppe.com

目次	総会報告	飯嶋 茂	・・・	1p
	若年性認知症ご本人の発表から	木村 克夫	・・・	6p
	新人さん自己紹介	伊藤 未来	・・・	8p
	新聞記事より ①にしぴりかの美術館		・・・	9p
	②亙理・ワタリス		・・・	10p
	希望	阿部 央希	・・・	11p
	ふれあい製品フェアをお越しく下さい	飯嶋 茂	・・・	12p

総会報告

第18回麦の会総会は、5月28日(日)、東部市民センターにて行ない、事業報告、決算、事業計画、予算とも承認されました。

麦の会では寄付金の控除が認められる仮認定NPO法人の認証を受けています。今年度は本認定の申請をすることになります。そのためには引き続き賛助会員の拡大が必要です。

以下、事業報告の抜粋を載せます。これからもご支援をよろしく申し上げます。

2016年度事業報告

【1】就労継続支援B型「コッペ」の運営状況

① 開設状況

開設日数は、251日/年、利用者延べ数は、3,275人となっています。コッペの定員としては、20名。在籍は16名です。一日当たりの平均利用者数は、12.9人となります。それを支えるスタッフは、常勤4名、パート6名です。それにコッペショップを支えるメンバーの方々、区役所販売等を手伝っていただ

けるボランティア方々等に、コッペの運営に協力して頂きました。土日のイベント販売時には障害メンバーも参加してもらえるとありがたいです。

今年度は、多くのメンバーにも外へ出てもらおうと、配達・販売にもこれまで行っていなかったメンバーも参加してもらいました。

② 売り上げ

パンとクッキーの売り上げは、約2,143万/年(仕入れ販売約240万を含む)、月平均178万となっています。2015年度の売り上げとほぼ同じ数字になっています。

③ 訓練等給付費収入

2016年度は2,557万円ほどとなりました。前年度より30万上がりました。人数・給付費の単価も変更がなく、ほぼ前年並みの数字になりました。

④ 工賃

障害メンバーの給料は、最高で79,000円最低11,000円、平均約53,000円となっています。昨年とほぼ同じです。B型の工賃としては県内で3番目ぐらいです。

⑤ ミーティング

今年度も月・水にペーパーを作り、全員で行うようにしました。普段コッペに来られない方にもコッペの日常がよくわかるのではないかと思います。

⑥ コッペショップ

パンに関しては売上の中でもショップが重要な位置をしめています。春・秋のセール・バレンタイン・ホワイトデーセールに加え、第一木曜日をコッペの日として定期的にセールを行いました。

ショップということではありませんが、コッペのロゴを入れたシールを2種類作成しました。

⑤ ホームページ

ホームページそのもの更新はできていませんが、フェイスブックは活用しています。主にイベントの告知等で活用しています。麦の会ページへの「いいね」



は250人となっています。

写真・メニュー表も新しくしました。また、貸借対照表なども見る事が出来るようにしました。

⑥ 放射能検査

みんなの放射能測定室でとてとに検査に出しました。検出限界は10ベクレルでいずれも不検出となっています。今後も定期的に検査に出し、安全性を確かめます。原発に対しては、食品の安全という面でも反対の運動に協力していきます。

⑦ 食品表示・衛生管理

法律が変わり、栄養成分表示の義務付け等、現在の表示から変更する必要があり、ラベルプリンターを新しく導入しました。すでに稼働しています。栄養成分表示は、2017年度以降、検査に出し変更していく形になります。

また、コンサルをお願いして、作業場の衛生チェックを3月に行いました。その指摘を受けて、ペーパータオル・液体せっけん・アルコール消毒液の導入を行いました。環境のことを考えるとペーパータオルには抵抗があったのですが、より厳しい安全管理が求められている昨今、コンサル等の指導も受けながら、今後とも衛生管理の向上に取り組まなければいけません。そのためには経費がかかります。

⑧ レクリエーション・研修

- ・共同連東北ブロック交流会 7月9日(土)・11日(日) 福島県南相馬市
- ・共同連全国大会 9月23日(金)・24日(土)・25日(日) 大阪府堺市
- ・一泊旅行 6月24日(金)・25日(土) ハイルザーム栗駒
- ・いちえさん食事会招待 7月3日(日)・12月11日
- ・楽天招待 ゴールドマンサックス証券様より(宮城県社協を通じて)
協賛企業様より(東北福祉大を通じて)

【2】雇用関係について

現在のコッペの収支では、全員と雇用関係を結ぶことは難しいため、就労継続支援B型のままで、出来る人から雇用を結ぼうという方向でこれまで進めてきました。

しかしながら、新たに申請を出したところ、就労継続支援B型の対象者は雇用できないのではないかと労働局からの指摘があり、これ以上、就労継続支援B型のまま雇用関係を結んでいくことは難しいと判断し、対象となっていた人との雇用関係を打ち切りました。

共に働く場を作りたいというコッペとしては苦渋の判断でしたが、制度上では基本的に雇用にはなじまないとされているもので、これ以上、このまま進めるわけにもいきませんでした。

【3】仮認定NPO法人格から本認定へ向けて

より信頼性の高いNPO法人として認められることと、税の優遇措置がとられる認定NPO法人格の取得をめざし、仮認定NPO法人の申請を2015年3月30日付で、認証がおりました。

2017年度に本認定の申請を行うにあたり、100名以上の寄付者・賛助会員がいることが条件となります。おかげさまで2015年度は108名、2016年度は117名となっています。

安定して条件をクリアするためにはさらに会員の増加が必要です。会員皆さんの声掛けを改めてお願いします。

【4】理事会

計10回行いました。しかし、今年度も最近参加する人が限られています。コッペでは、みんなで運営を考えていこうというスタンスで、理事会には都合がつく限りみんなに参加してもらっています。

売上・収支状況・販売・行事予定・会員の状況・ショップについてといった定例の議題のほか、麦の穂の発行、障害者虐待防止法の学習会・障害メンバーと雇用関係や新年度の体制について話し合いました。

コッペにとって重要なことを話し合っています。出来るだけ多くの人の参加をお願いします。

新年度の体制について話し合われた内容は以下の通りです。

『*コッペの現状

○ショップでも障害メンバーが働ける必要…作業場が狭い。

以前から課題として挙げられていたことでもあるが、2名が増えることを踏まえ、解決する必要

○外販にももっと出ていく必要・・・もっと一緒に販売・配達に行く

○営業する必要・・・売り上げは伸びていない。ここ数年、まともに営業ができていない。むしろこのままでは売り上げは落ちていくことは容易に想像できる。

○売り上げの落ち込み・・・工賃を下げざるをえない場合も。コッペをやった意味がなくなる。

○今後5年10年を考えてもこのままではいけない

*次年度の体制について

○常勤スタッフを1名増員し、人員の1名を、製造の他、ショップ兼外販スタッフとする。

障害メンバーと一緒にお店番・外販をする。さらには、営業にも出てもらう。

店内POPの作成 保育所・ディサービス・NPO関係の事務所など

日常的なチラシ撒き フェイスブックでの発信

あいコープ等、すでに商品を卸しているお客さんにも新商品や企画品の売り込みに行く

○現在のショップ販売当番の形態は変更し、区役所販売等外販があるときや繁忙

期に、ショップのお手伝いを募る形にする・・・その際のショップの「給料」は現在の形で計算する

○近い将来的には、送迎も検要討か。

***グループホームの問題も考えたい。**

○麦の会として「多角」経営も必要か…みんな年をとる…「生活する場」の検討

○上記の問題にかかわるが、親が子から「自立」することを、親が元気なうちに考えてほしい。』

【5】会員（3/31 現在）

正会員 22名 賛助会員 117名 計 139名

【6】社会教育の推進

会報「麦の穂」の発行 計4回 それぞれ200部前後

2016年 6月 8月 11月 2017年 2月

賛助会員の確保のためにも会報は大切です。しっかり定期的に発行したいと思えます。

編集を担当してくれる方を募集中です。

【7】NPO法人フルハウスとの連携

コッペの直接の運営母体は麦の会ですが、障害者総合支援法上は、NPO法人フルハウスが運営する形になっており、訓練等給付もフルハウスを通じて入ってくる仕組みとなっています。

給付費の請求事務は、もともになるデータはコッペで作成し、国保連への請求はソレイユから行っています。それに対して月1万円の事務手数料をソレイユに支払いしています。

さてNPO法人フルハウスを構成するフリースペースソレイユとですが、12月3日「田んぼカフェソレイユ」をオープンしました。

【8】NPO法人共同連並びに東北ブロックについて

NPO法人共同連は、コッペの立ち上げからお世話になってきました。全国の共に働く事業所の団体です。

共に生き働く社会の実現は自分のところだけではできません。各地の仲間とともに取り組んでいく必要があります。

今後とも大会・研修会とも、多くのメンバーで参加したいと思えます。

【9】熊本地震への支援

共同連の「くまもと障害者労働センター」さんも被害があり、理事会で支援金を送ろうということになりましたが、送り先は、「くまもと障害者労働センター」にカンパを送りました。

また、くまもと障害者労働センターのクッキー・かりんとうなどを仕入れ、販売支援を行いました。

コッペに長年通っている木村幸子さんのお父さんが亡くなりました。若年性認知症と診断された木村克夫さん自身の発表原稿を見せてもらいました。まだまだ実名で発表するなどにはばかられる時代ですが、県内では初めて実名で発表されたそうです。ご冥福を祈りつつ皆さんにも紹介したいと思い転載させていただきます。

飯嶋

2010年「全国研究集会」より転載

若年期認知症ご本人の発表から

仙台市 木村克夫

私は平成20年にアルツハイマー型認知症と診断されました。

在職中に、「何かちょっと違う、老化現象かな?」と思いましたが、「でも、それとも少し違う」と感じていたように思います。当時、仕事は製薬会社の営業マンで、仕事中心の日々を送っていました。仕事は忙しくて大変でしたが、成果が得られることで休日返上の、仕事づけの日々でした。帰りも遅く、家庭を振り返る暇もありませんでした。

仕事中、パソコンで何度も同じことをするようになり、自分でもやはりおかしいと思いました。病気のことを知りたいと思い、本屋や図書館に行って探したけれど、納得のいく本には出会えませんでした。

製薬会社でしたので、業務上必要だ、と言って本を取り寄せてもらい、「やばい!」と思いました。認知症になったのは、オーバーワークで脳のキャパシティを越えて、パンクしたのだと思いました。仕事の忙しさは当たり前で、自分ではストレスとは感じていませんでした。

「認知症」だといわれましたが、その時は納得できませんでした。直りたいと必死でしたが、今は直らないと分かったので、それはあきらめました。これからの自分の生き方を考えますが、なかなか目標が見つからないのです。というか、求めています。ただ、妻や子どもに大切にされたいと思います。

初めのころは「ワンモアが欲しい」と探したのですが、見つかりませんでした。今、そのなにかをする気力がなくなってきました。「アポって、わからなくなって、死んでいったんだって!」と言われるのは、辛いです。

現在、妻からすすめられたデイに行っています。デイは楽しくない。イライラする。でも、行くところがないから、今のデイに行っています。自分の家にずっといるよりは、3割増しぐらいはいいとおもいます。でも、利用者とは会話もないし、したくもないのです。職員とは会話をします。職員は仕事だから、会話をしてくれます。

他人の作ったカリキュラムではつまらない。自分の人生だから、自分で計画してやりたいと、時々思います。デイは利用者をたてまつる必要はないが、

私がやりたいことを後押ししてくれる所があったら行きたいと思います。

スタッフはケアの哲学を持っていない。今行っている所には、認知症の進んだ人や、障害を持った人がいます。自分がそのような環境にいることが嫌だと思えます。認知症というひとくくりのやり方は嫌です。脳のキャパシティの同じような人がいるところだったらいいです。

でも、本当は、普通の社会で後押しをしてもらいながら生活したいのです。

いま・いちばんほっとするのは、自分の部屋にいるときです。ホッとできる場所で犬と遊ぶ時がいいのです。でも、動物とのつながりだけではつまらない。やはり、人と人との関係は必要です。人間対人間は大事です。

時々、淋しいと思うことがあります。不安からくるのかもしれませんが、淋しいです。誰のせいでもないが、淋しい…。いつもというわけではないが、そう思うときがあります。

人間性を 大事にして ほしい。
自尊心を 大事にして ほしい。
自尊心が 無くなったら おしまいです。
自尊心は 生きる力で
何かをする きっかけを つくってくれます。

仲間を つくりたい。
仲間づくりの 手助けを してほしい。
コミュニケーションを とって
私たちの思いを 受け止めてもらいたい。

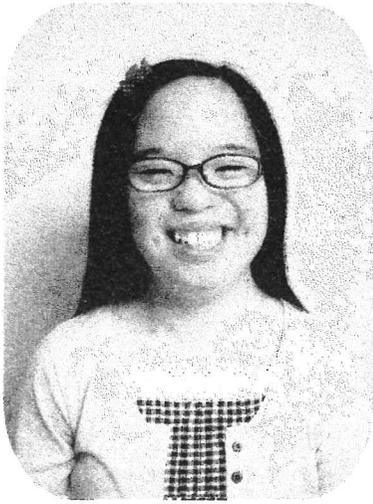
ハートとハートの つながり を 大事にして 欲しい。
家族に 接するように 私たちにも 接してほしい。

妻に感謝しています。・妻がいるから、困ることはない。妻は行動的で、私にとって良いことを探してくれる。でもまだ、妻の家来には、なりさがりたくない。

「翼」に連れてきてもらってよかった。歌を歌っている時は、うれしい。素晴らしい気持ちだ。

これからの時代は・認知症の人がどんどん増えて、街中、認知症の人であふれる社会になっていくでしょう。認知症の人、そうじゃない人も、街で普通に暮らすのが当たり前の社会になってほしいと思います。

どこかに入れるとか、入院するとかではなく、お互いに助け合ったり、見守ったりする社会であってほしいと思います。



私は、伊藤未来です。
いずみ高等支援学
校専攻科卒業しました。
平成8年4月18日生まれ21
さいです。仙台市泉区南光台
東に住んでいます。

家では、DVDをみたし、しゅうをしたり、DSで、
すみっぐらしをしてあそんでいます。火요일は
ダンスに行ったり、土、日は、音楽孝友室に行っ
たり、バンドでリコーダーをふいたりしていま
す。

コッペで、はたらくのは楽しいです。
おしごといっしょうけんめいがんばります。
よろしくおねがいします。

芸術表現通じ「生」問う

「世間に知られていないが人の心に迫る作品を作る。そんな人たちの存在を知ってほしい」。

宮城県大和町に2015年6月オープンした「にしびりかの美術館」には小野田豊代表(58)の思いが凝縮されている。オープンから間もなく2年。小野田代表の思いに共感の輪が広がり始めている。

(泉支局・北條哲広)

「オープンから2年がたとうとしていきます。」

「東北や関東を中心に来場者は2000人近くになりました。企画展も6回開催しま

みやぎ

この人 このまち

「障害とどう言葉をつくっていくか。」

「障害者の芸術を展示する美術館と言われませんか。」

「障害者と言われませんか。」

「作品が山ほどあります」

「したが、まだまだ紹介したい作品が山ほどあります」

にしびりかの美術館代表 **小野田 豊さん (58)**

と見る人の目を曇らせませす。それ自体、もうアートではない。実際、そういうくくりでは作品を選んではいません」

「では、どんな美術館でしょうか。」

「生きる。その事に本気で向き合った、あるいは向き合わざるを得なかった人たちを紹介する美術館です。人が『一人ひとり』であるように作品も『一つひとつ』。心を突き動かす作品ばかりです」

「オープンの際を教えてください。」

「そもそもは1995年、引きこもりになった妻と共に歩むため、14年続けていた小学校の教員を辞めたことがきっかけです。妻と2人、精神

障害と向き合いながら居場所づくりや子育て支援などにも取り組み、2003年2月にNPO法人を設立しました」

「障害者支援活動でもアトに取り組んでいましたが、活動を通じて出会った多くの

作品から、アートの力強さと可能性を教えられました。6年ほど前から、それらの作品をもっと見たいし、多くの人の見て知ってほしいと思うようになり、さまざまなたちの支援を受けて美術館オープンにたどり着きました」

「入場無料の美術館ですね。」

「一般的な美術館は作品購入に多額の資金を必要としますが、当館は作品をほぼ無償で借りているので入場無料でも成り立ちます。作品の貸与や企画、展示は東京都内にある精神科病院の造形教室が中心となって支えてくれています」

「今後の方向性は。」

「美術館も障害者支援活動も居場所づくりが原点です。自分が自分のまま生きられる場所として発信を続けていきたい。展示しているのは、表現とは何か、芸術とは何か、深く考えさせられる力ある作品ばかりです。実際に見に来てください。きつと今までにない発見があるはずですよ」

(月曜日掲載)



おのだ・ゆたか 1958年長野県生まれ。宮城教育大卒。宮城県内で小学校教諭を14年間務める。NPO法人黒川こころの応援団代表。2015年6月から現職兼務。連絡先は同応援団022(347)0028。

自分が自分のまま生きられる場所として発信を続けたい

5/17
河丸

大切な日着物地で表現

366枚合わせタペストリー

東日本大震災被災地の活性化を旨とし、古い着物地を活用したビジネスを展開する亘理町の株式会社「WATALIS(ワタリス)」は15日、ギャラリー兼工房を同町五日町の空き店舗に開店した。亡き人も含めて誕生日を祝う着物地のタペストリーを、日本記念日協会(長野県佐久市)との共同プロジェクトの象徴として公開している。

亘理・ワタリス

プロジェクトは、町がはらこめしの日(10月8日)を記念日協会に登録申請したことが縁で始まった。震災後に起業し、着物地を再生した巾着袋などを製造、販売してきたワタリスの活動に共感した協会が、タペストリーの制作を依頼。ワタリススタッフらが数ヶ月かけて手作りのタペストリーは縦1・5畳、横2・5畳。全国から集めた366着の着物を使い、1着1日を合わせた366着の自分の小さな袋を縫い付けた。

日付ごとにカード添える

日付ごとに記念日などが記された誕生日カードが添えられ、来場者は持ち帰ることができる。震災で犠牲になった人の誕生日を祝う気持ちも込められているという。ワタリスの引地恵社長(49)は「大切な人のことを思い、人と人とのつながりを感じてもらえたらうれしい」と話す。ワタリスは、着物地を活用する町の再生文化を発信しようと、同社創立記念日の5月15日を「ワタリスの日」として協会に登録申請し、認定された。

ギャラリーで公開

新店舗は広さ100平方メートル。ギャラリー部分をワタリスと記念日協会が共同で運営し、タペストリーを展示する。14日に新店舗のお披露目会があり、協会の加瀬清志代表理事や齋藤貞町長らが訪れた。午前10時〜午後4時、日曜祝日休み。連絡先は同社02223(23)1075。



タペストリーの出来上りを確かめる引地さん(左)と加瀬さん

希 望

阿部 央希

自分はもっとしっガツと仕事も
やります。新しい素直になって
良く返事や挨拶もうまくでき
るようになっていい先輩になりたい
です。20年目なる事は皆を
優しい自分になってやるこれが
希望という意味です。

ふれあい製品フェアにおいで下さい

飯嶋 茂

障害福祉事業所の販売機会を増やすために、仙台市として各区役所・市民センターでの販売の調整や各種イベントでの販売ブースの確保等行っています。

その一つとして、市民広場での「ふれあい製品フェア」があります。

開催回数は年5回ほど、毎回20～30事業所ほどが参加しています。

ふれあい製品フェアは、自前でテント・机・いすなどを持って行き、設営・撤収をしなければならず、用意されている机を使える区役所等より手間ひまはかかります。それでも20～30ほどのブースがあるので最近ではちゃんとしたイベントっぽい感じが出てきています。

売り上げはどうかというと、コッペの話になりますが、区役所・市民センターよりもいい。区役所は場所にもよりますが、1万～2万が平均の売上。それに対しふれあい製品フェアは2万以上になります。

ただここ数年はマンネリ感もあり、このまま続けて行けるのかという感想も抱いていました。仙台市の担当の方ともそんな話をし、せっかくここまでやっているのだから少しでもいい方向へ行くようにしようということで、昨年度から、仙台市障害者就労ステップアップ事業室が中心となり、「ふれあい製品フェアを盛り上げる会」を行っています。その中では実際に販売する上でのテクニック、陳列方法・接客・POPなどの研修から、みんなでどうやって盛り上げていこうかというワークショップ等を行ってきました。その中で具体的なアイデアとしてスタンプラリーを行うようになり、売り上げ増とイベントとしてのまとまりに貢献しています。

みなさんも是非、ふれあい製品フェアにおいで下さい。

場所は、市役所前市民広場です。時間は、10時半～14時半。

次回以降の開催予定は以下の通りです。

6月20日(火)・7月25日(火)…この日はコッペは不参加です

8月29日(火)・9月25日(火)・10月20日(金)

よろしくをお願いします。

〈編集後記〉

にしぴりかの美術館さん・ワタリスさんとも、コッペのクッキーも販売して頂いています。すてきな活動をなさっていますね。(飯)